

植村純子

4年間、APP キャンプに参加させていただいて、今回のメルボルンキャンプで特に印象に残った点が2つある。

一つは、「Censorship&Blacklist Artist」についてのセッション。韓国と台湾の事例を聞き、そのあと各国のメンバーとそのことについて言葉を交わせたのは、とても意義があった。情報としては知っていたことが、より現実感を持って心に響いて、私にとって大事な時間だった。

もう一つは、今回のキャンプが、Asia TOPA の一環として行われたこと。いくつかのパフォーマンスにも触れ、これが国際フェスカ・・・！という印象を強く感じた。

APP キャンプは、私が初めて参加した「国際交流」の現場だった。ついていくだけで精一杯だったように思うけれど、そんな私だからこそ、このような経験の機会をいただけたご縁を改めて貴重に感じる。また、同時に日本の多くの仲間に対しても、世界のことにもっと触れて欲しい、関心を持って欲しい、という気持ちが湧いた。

世界は広い。この旅を通じて、改めて、ポジティブにそう感じた。

来月、私は京都の劇団のソウル公演に同行することになった。初めて海外での公演の現場に立つ。ソウルでのAPP キャンプから4年を経て、これから何をやっていけるだろうか。

最初にソウルのキャンプに参加した時、その総括として、「プロデューサーの役割 (role) は、繋ぐことだ」と思った。何かと何かを繋ぎたい。私は私のできることを何かやろう。京都に帰って、それをずっと考えている。